東京都立成瀬高等学校 図書館
2020/05/19

休み中に読んでほしい本 第6号

成瀬高校では毎年小冊子「夏休みに読んでほしい本」を１年生の皆さんにお配りしていますが、今回、先生方の協力を得て、そこから抜粋し、新作も含め Web 版で再開の日まで定期的にお届けすることにしました。

『銃・病原菌・鉄（上)・(下）』 ジャレド・ダイアモンド著，倉骨 彰 訳 （草思社文庫）

ピュリッツアー賞など幾多の賞をもらった名著。以前読んで大いに感心したが、今回は新型コロナウイルス感染のこともあり、改めて理解が深まった。地理的偶然などによる文明の出現、衰退。都市化に必然の伝染病（病原菌)。壮大な人類の歴史が新しい視点で読み解かれる。人類の抱える問題は文明が発展しても相変わらず存在し続けると実感させられた。

（進路指導部，英語科: S）

『 キネマの神様 』 原田 マハ 著 （文春新書）

会社を辞めたばかりの娘と、ひょんなことから映画に関するブログを始めた父親。そのブログの書き込みから物語は広がり・・・。読み始めたら最後まで止まらない小説です！
作中には有名すぎる名作映画がたくさん登場するので、それを見てみるのもいいかも。間違いのない名作小説と往年の名作映画に浸ってみてはいかがですか？

（探究研修部，英語科: A）

『考えるとはどういうことか，0 歳から 100 歳までの哲学入門』 梶谷 真司 著 （幻冬舎新書）

社会には「正解はない／正解は１つではない」という問題が多々ありますが、「相手を論破／シャットアウトする」か「無理やり相手と同調／協調する」のどちらかでは苦しいばかりです。それを救うのは、「ある特定の結論や答えを目指す」のではなく、リラックスしながら「共に問い、考え、語り、聞く」ことによる「対話」ではないでしょうか。あちこちに話が飛ぶ中で新しい発見がある―その過程でこそ、他者のさまざまな考えに思考や心が開かれていくのだ、と実感させてくれる本です。

（生活指導部，芸術・音楽: K）